

ハムスターとのお別れ

六年 田中宏遼

初めて飼育したハムスターが亡くなり、半年が経つ。毎日とてもさみしい。最近まわりから、

「新しいハムスターを飼ったらどう?」

と聞かれるが、僕はなかなか飼う気にならない。

うちのハムスターは、最初家に来た時、とても怖がりで、いつも小屋の中でじっとしていた。たくさん声をかけ世話をした所、少しずつ慣れてくれた。活発で二回も脱走し、困らせたこともあった。でも、エサを食べるしぐさはとてもかわいくて、毎日一緒に遊んだ。

そんな元気なハムスターがある日突然、急に横たわり苦しそうに息をしていた。タオルでくるみ手のひらで包んでみたが、少しずつ体は冷たくなり、あつという間に天国へ行ってしまった。

ハムスターがいなくなった後の家の中はとても静かで悲しかった。悲しみをまぎらわせるために、僕はたくさん撮った写真をもとに一冊のアルバムを作ってみた。

約三年間の写真を並べてみると、ハムスターは確実に年をとっていた。最初は小さくて毛並みもつ

やつやしていたが、最後は毛が抜けて、寝ている時間が多かった。

改めて写真を見て、ペットは自分より早く年をとり亡くなってしまうということを実感した。そして僕が新しいハムスターを飼う気にならない理由は、亡くなった後の悲しみを考えてしまうからだとも気付いた。

その後、ハムスターの飼育道具を片付けていた所、ハムスターが残したエサのヒマワリの種が見つかった。庭に植えてみたら、花が咲き、種が箱いっぱいにとれた。今はその種をまた庭に植え、庭中にたくさんヒマワリを咲かせようと計画中だ。天国にいるハムスターが空から見ているかなと思うと、毎日の水やりも楽しくなる。

たった三年だったけれど、たくさん思い出を残してくれたハムスターに感謝している。そして、初めてペットを飼ったことはとても勉強になった。ペットを飼育していると、かわいいだけでなく、悲しい時もお世話が大変な時もある。いつでも自分は飼い主だから責任を持たないといけない。

僕に再び、その覚悟ができた時、次の新しい出会いが待っているのかもしれない。